

上下水道局 令和3年度予算編成方針

急速な社会情勢の変転により行政ニーズが変化している状況ではあるが、上下水道はヒトの生活に欠くことができないライフラインとしてその使命と役割は今後とも変わることはない。ポストコロナに向け新たな暮らし方などへの適応も必要だが、生活への不安が募る今こそ、将来にわたって現在のサービス水準を約束できる経営を確保していくことが市民に対する真の「支え」と言えるものである。

予算編成にあたって考慮すべきポイント

- 基本理念『ずっと先の未来まで、おいしい水と快適な生活環境を守るため、水循環を支えていく』の実現に向けた「経営戦略」及び「中期経営計画」の着実な推進
- 全庁を挙げたコロナ対策（「Life（いのち）を守り、Life（くらし）を取り戻す」）とSDGsの推進
- 国の「骨太の方針2020」に基づく行政のデジタル化・オンライン化・AIの活用
- 人口減少による水需要の減少、自然災害や老朽化に伴う突発修繕の増加、投資のための財政負担の増加など、厳しい経営環境



9つの重点項目

- 1 「第4次中期経営計画」に掲げる成果指標の着実な推進
- 2 アセットマネジメントの取組の更なる推進による事業の最適化
- 3 既存の事業とSDGsとの関連付けによる中長期の視点の活用
- 4 施設の老朽化対策や地震対策、浸水対策の早期執行
- 5 行政手続きのデジタル化・オンライン化等による「新たな日常」への対応
- 6 コロナ禍の先を見据えた事務事業の点検と危機管理体制の再構築
- 7 国の交付金制度を積極活用した留保資金の流出抑制
- 8 債務負担行為を活用した発注・施工時期の平準化
- 9 課題、懸案事項の早期解決

持続可能な社会に向けた上下水道事業の取組をSDGsの開発目標に体系化することで「大切な水」をどう守るか、公的役割を明らかにします。

債務負担行為：
発注時期が年度前半だけに集中しないよう予算の特例的制度を活用します。